

# とやま 衛生研究所だより

No. 111

平成 28 年 6 月 24 日  
編集・発行  
富山県衛生研究所  
〒939-0363  
富山県射水市  
中太閤山17-1  
TEL (0766) 56-5506(代)  
FAX (0766) 56-7326

## 所長に就任して

所長 滝澤 剛 則



このたび富山県衛生研究所長に任ぜられ、平成 28 年 4 月 1 日に着任いたしました。私は、昭和 59 年に金沢大学大学院医学研究科を修了し、東京大学医科学研究所附属病院での臨床研修を経て、米国カリフォルニア州にあるシティーオブホープ研究所に 2 年間留学しました。その間、主にヘモグロビン異常症や赤血球の酵素異常症を対象に研究を行いました。当時は、クローニング技術の普及に伴い、家族性高脂血症の遺伝子変異の報告が話題になるなど、先天性疾患の原因が明らかにされつつありました。その後母校に戻り、新たな教授の下でインフルエンザウイルスの複製や宿主との相互作用の研究を開始しました。この時以来、ウイルスが研究対象となりました。

当所には、平成 17 年にウイルス部長として赴任しました。その頃、私は愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所で研究を継続していましたが、当時の永井美之所長から突然お誘いの電話があり、行政検査の経験の乏しい私に衛生研究所の仕事が務まるのか、不安を覚えたことが今でも記憶に残っています。

当所では、永井、倉田元所長、佐多前所長の下で 11 年間ウイルス部長として勤務してまいりました。歴代所長はそれぞれの分野で優れた業績をあげた方ばかりで、当所でも特色を出して指導運営に努められていました。そのおかげで、当所は全国でも高い評価を受けています。私もこれら所長の下で、部員とともに多くの経験をさせていただきました。当所に赴任したときは、重症急性呼吸器症候群(SARS)は沈静化していましたが、鳥あるいは新型インフルエンザの発生が懸念されており、2009 年にはメキシコに端を発した「新型インフルエンザ」が大流行しました。全国の地方衛生研究所等で検査体制が整備され、主要な空港では厳格な検疫体制が布かれたにもかかわらず、5 月に関西で国内初の患者が報告されました。渡航歴のない方でした。感染症の水際の侵入防止がいかに困難であるかを浮き彫

りにしました。その後も、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(H7N9)、デング熱、ジカ熱など新たな感染症が繰り返し発生しています。当所では、検査に加えてSFTSを媒介するマダニや、デング熱やジカ熱を媒介する蚊の調査も行っており、これらの病原体は幸い県内では検出されていません。

このような感染症は、感染症発生動向調査事業に基づいて監視されており、その法的根拠となる感染症法が改正され、平成 28 年 4 月 1 日から施行されています。その中で、地方衛生研究所の役割がこれまで以上に明確になりました。全国どの衛生研究所でも高い検査精度が得られるよう、検査法、機器の維持管理、精度管理などの標準作業書を整備し、機能をより強化することになったのです。制度が定着するまでしばらく時間を要すると思いますが、所員とともにしっかりと対応していきたいと思っています。

当所は、微生物検査のみならず、染色体検査、新生児先天性代謝異常症のスクリーニング検査、食品や飲料水の理化学検査、カドミウム汚染地域の住民健康調査など多くの行政検査を行っています。検査技術は日々更新されます。衛生研究所が地域の中核的な試験研究機関として機能していくためには、行政検査のみならず独自の調査研究を行って絶えず新たな技術を導入し、それらを普及啓発していく必要があります。5 年前のユッケによる集団食中毒事件のような大規模な事件の検査は別として、衛生研究所は本来あまり目立つべきではないかもしれませんが、一方で、検査結果や研究成果など事業内容をよく理解していただき、独りよがりの調査になっていないか客観的に評価される必要もあります。そのために、当所では外部の専門家等による研究評価を実施するとともに、事業内容を年報やホームページに掲載したり、毎年 11 月頃には研究成果発表会を開催したりしています。この「衛生研究所だより」もその一つです。理解しやすい記載に努めてまいります。今後とも、忌憚のないご意見とご支援を賜りますようお願いいたします。

## ジカウイルス感染症について



ジカウイルス感染症は、フラビウイルス科フラビウイルス属のジカウイルスによる感染症で、ジカウイルス病と先天性ジカウイルス感染症に病型分類されています。

### 【症状】

後天的にジカウイルスが感染することにより起こるジカウイルス病では、軽度の発熱、発疹、結膜炎、関節痛、筋肉痛、倦怠感、頭痛などが主な症状ですが、不顕性感染が約80%を占め、症状がないか症状が軽いため感染に気付かないこともあります。

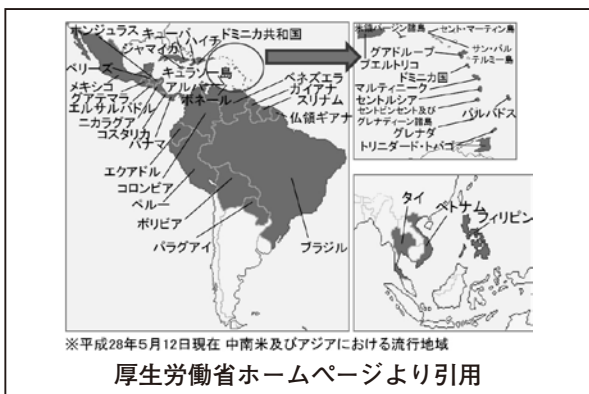
妊婦がジカウイルスに感染すると、母子感染により胎児に小頭症等の先天性障害を来すことがあります（先天性ジカウイルス感染症）。また、ジカウイルス感染は手足の麻痺などの神経症状を呈するギランバレー症候群と関連があることが、疫学研究により明らかにされています。

### 【感染経路】

主に、ネッタイシマカやヒトスジシマカなどのヤブカ属の蚊に刺されることによって感染します（蚊媒介性）。その他の感染経路として、母子感染（胎内感染）、輸血、性行為による感染があります。

### 【流行地域】

アフリカ、中南米、アジア太平洋地域で発生があり、近年は中南米で流行が拡大しています（下図参照）。中南米以外の地域でも発生していますので、海外に旅行する際は、流行地域の最新情報を検疫所のホームページ（<http://www.forth.go.jp>）でご確認ください。



### 【感染予防・拡大防止対策】

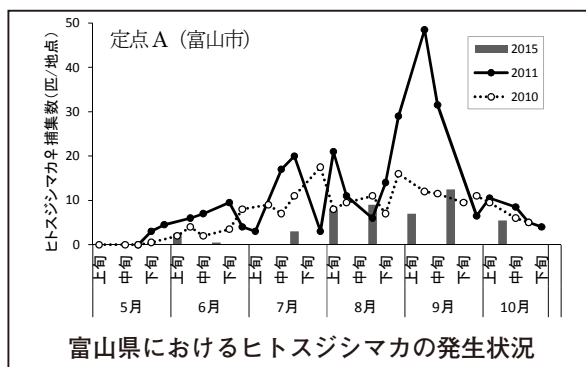
ジカウイルス感染症のワクチンはないので、流行地域に渡航される方は次のような対策を行ってください。なお、妊婦がジカウイルスに感染する

と、胎児に小頭症等の先天性障害を引き起こすことがあることから、妊婦および妊娠の可能性のある方は流行地域への渡航を控えた方が良いとされています。やむを得ず渡航する場合は、主治医と相談の上で、防蚊対策を講じることが必要です。

### ○ 流行地域に渡航中の注意点

長袖、長ズボンを着用し、定期的に蚊の忌避剤（虫よけスプレー等）を使用するなど、蚊に刺されないための対策を行ってください。流行地域は熱帯・亜熱帯に位置し、一年中蚊が活動しています。また、流行地域に生息しているネッタイシマカは屋内にも積極的に侵入する性質を持っているので、注意が必要です。

性行為感染のリスクを考慮し、症状の有無に関わらず、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えてください。



### ○ 流行地域から帰国後の注意点

2014年のデング熱流行のように、国内に生息するヒトスジシマカが媒介蚊となり、蚊の活動時期（上図参照）に輸入例を発端としたジカウイルス感染症の国内流行が発生する可能性があります。帰国後少なくとも2週間程度は、忌避剤の使用など蚊に刺されないための対策を行ってください。

性行為感染のリスクを考慮し、流行地域から帰国した男性は、最低8週間、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えてください。

母体から胎児への感染のリスクを考慮し、流行地域から帰国した女性は、最低8週間は妊娠を控えてください。

なお、ジカウイルス感染症は不顕性感染が多いため、これらの対策は症状の有無に関わらず行ってください。（ウイルス部 佐賀 由美子）

## 山菜等の誤食による食中毒について

春から初夏にかけてのこの季節は、山菜採りや家庭菜園などを楽しまれる方も多いと思います。しかし、それに伴い、それらと誤って有毒な野草を採取し、食べることによる食中毒の発生件数が全国的に増加する時期でもあります。昨年の4月から6月にかけて、有毒植物の誤食による食中毒が、全国で10件発生し、24名の患者が報告されました。また、今年も5月10日時点で、すでに6件の食中毒が報告されています。こうした植物に含まれるアルカロイド系の有毒成分には、毒性が強いものも多く、細菌性やウイルス性の食中毒と比較して重篤な症状となるケースがしばしば見られます。

今回、私たちのごく身近にある植物で、食中毒事例の多い有毒種について紹介します。

### 【スイセン】

観賞用植物として全国で多様な品種が栽培されており、白や黄色のきれいな花を咲かせます。しかし、喫食すると30分以内に吐き気や嘔吐、頭痛などの中毒症状を起こします。葉がニラと似ていることから、毎年全国で食中毒事例が報告されており、県内でも平成23年に発生しています。ニラ特有の臭いの有無で判別することができます。

### 【バイケイソウ】

高さ1mの大型の野草で、低山から高山帯までの湿地に自生します。小型の品種はコバイケイソウと呼ばれます。食後約1時間で吐き気、嘔吐、手足のしびれなどの症状が現れ、重症の場合死亡することもあります。県内では新川地区で食中毒が比較的多く発生しています。新芽が山菜のギボウシやギョウジャニンニクと似ているため、注意が必要です。葉の葉脈の形が平行なものがバイケイソウで、主脈と側脈に分かれるギボウシと判別することができます。

### 【イヌサフラン】

鑑賞用植物で、サフランに似た花を咲かせますが、喫食すると、嘔吐、下痢、呼吸困難などの症状を起こします。重症化しやすく、死亡事故も報

告されています。こちらも葉がギボウシやギョウジャニンニクと似ているため、注意が必要です。

### 【トリカブト】

平地から高山まで自生しています。毒性が強く、食後10～20分以内に口唇、舌、手足のしびれや嘔吐などの症状を起こし、呼吸不全に至って死亡することもあります。山菜のニリンソウ、モミジガサなどと似ています。

### 【チョウセンアサガオ】

過去には薬用として栽培され、現在でも全国に分布しています。根をゴボウと、つぼみをオクラと間違えやすく、食後30分ほどで口渇、意識混濁、倦怠感などの症状を起こします。

これら有毒植物による食中毒を防ぐには、山菜や野草に関する正しい知識と鑑別法を身につける必要があります。山菜採りなどをする際には、1本1本をよく確認し、それでもよく分からない植物については、採ったり、食べたり、販売したり、人にあげたりしないようにしましょう。また、家庭菜園や畑などで間違えないように、野菜や山菜の近くで観賞植物を栽培しないようにしましょう。

これら各植物の詳細については、厚生労働省ホームページの「自然毒のリスクプロファイル」をご覧ください。（化学部 村元 達也）



上段左からスイセン、バイケイソウ（新芽）、イヌサフラン、下段左からトリカブト、チョウセンアサガオ（厚生労働省ホームページより引用）

## 平成28年度「夏休み子ども科学教室」のご案内

テ ー マ：身近な細菌を観察しよう  
 内 容：食品や手指に付着している細菌を観察する。(2日間にわたり細菌を観察します。)  
 開催日時：7月28日(木)～7月29日(金)(2日間)  
 時間は両日ともに午前9時～12時  
 会 場：富山県衛生研究所(富山県射水市中太閤山17-1)  
 対象定員：小学生中高学年、10人以内 ※応募者多数の場合は抽選となります。  
 申込方法：電話、FAX またはE-mailで、①住所、②氏名、③学校名・学年、④電話番号を  
 連絡または記入の上お申し込みください。  
 TEL：0766-56-8142、FAX：0766-56-7326  
 E-mail：aeiseikenkyu@pref.toyama.lg.jp  
 応募締切：平成28年7月15日(金)までをお願いいたします(必着)。  
 注意事項：保護者の同伴が可能です。内履き、筆記用具を準備してください。

## 人 事 異 動

(平成28年4月1日付)

〈退職〉	旧 所 長 環境保健部長	佐多徹太郎 金木 潤	
〈新任〉	新 所 長	滝澤 剛則	旧 厚生部参事・ウイルス部長
〈転出〉	旧 細菌部主任研究員 総務課主任 総務課主事	三井千恵子 浅井 直子 米田 智美	新 健康課 感染症・疾病対策班主任 高岡出納室主任 統計調査課 商工係主事
〈転入〉	新 環境保健部長 総務課副主幹 総務課主事	上野 美穂 京角ゆかり 宮川 幹子	旧 新川厚生センター主幹 高岡土木センター副主幹 高岡土木センター主事
〈採用〉	新 ウイルス部研究員 細菌部研究員	米田 哲也 内田 薫	(平成28年5月1日付)
〈昇任〉	新 ウイルス部長 細菌部副主幹研究員 がん研究部主任研究員 ウイルス部主任研究員 環境保健部主任研究員	小渕 正次 範本 志保 高森 亮輔 稲崎 倫子 小林 直人	旧 ウイルス部主幹研究員 細菌部主任研究員 がん研究部研究員 ウイルス部研究員 環境保健部研究員

## 受賞のお知らせ



綿引 正則(細菌部長)

食中毒や感染症等による健康危害に対応した細菌検査や調査研究業務に従事し、健康危機管理事例の発生時には迅速な原因特定や感染ルートの解明等を行うなど、健康被害の拡大防止や県民の健康増進・暮らしの安全確保の確立に多大な貢献をしたことにより、平成28年3月8日に一般財団法人日本公衆衛生協会会長表彰を受けました。

ホームページアドレスは <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/1279.htm>

又は、富山県のホームページからもアクセスできます。

【(<http://www.pref.toyama.jp>) → 組織から探す → 厚生部 → 衛生研究所】